

# I 経営基盤

## 1 学校及び地域

本校は勝連半島の付け根の南東部に位置し、地形上、丘陵地帯の裾に広がる平坦部で「下原：しちやばる」と呼ばれている。中城湾を抱くようにして「じゃーがる」といわれる粘土質土壌の農業地帯で、県内でも有数のサトウキビ栽培地として知られていた。学校は、県道16号線沿いの校区のほぼ中央の豊原に在り、国道沿いの学校敷地壁面は蔦で被われランの花が咲き学舎として落ち着いた雰囲気のある学校である。

本校の歴史は、大正2年（1913年）4月1日に具志川尋常高等小学校から分離し仲喜洲尋常小学校が創立されたことに始まる。当時の校区は、赤道・江洲・宮里・高江洲（本字：前原・志林川（尻川）昭和46年分離）・喜屋武（本字）・仲嶺（本字・當銘・喜久山）・上江洲（中塩屋・東塩屋）・太田（与那原・田佐原）の8カ字から成っていた。

大正6年（1917年）4月1日、高等科を併設し仲喜洲尋常高等小学校となった。その後、国が戦争への道を突き進む中の昭和16年仲喜洲国民学校となった。

太平洋戦争後3年目の、昭和23年（1948年）4月1日、学制改革の下で6・3・3制度がスタートし高江洲小中学校が創立された。昭和35年（1960年）小中が分離し、高江洲中学校となった。

豊かな中城湾、肥沃な下原平野に生まれ、勤勉実直で働き者の人々、サトウキビ畑に囲まれて本校は産声を挙げ現在に至っている。

現在の校区は、江洲・宮里の2ヶ字からなる中原小学校（一部は具志川中学校へ進学）と、川田・塩屋・豊原・高江洲・前原の5ヶ字からなる高江洲小学校の2小学校校区から成り立っている。この地域は、ユイマール精神が残り仲喜洲としての愛着もあり人情厚く、教育熱心な地域である。「なかきす」に対する誇りと愛着があり、オリン

ピックの開かれる年には大運動会が開催される。また、各自治会が結集し第1回仲喜洲フェスティバルが平成17年に開催され地域の文化を継承し発展させている。

近年、江洲・宮里は農家が減り商街地として発展しつつあり住宅やアパートが増え他地域からの移住が増えつつある。

また、川田・塩屋・豊原・高江洲・前原の地域においても、かつて盛んだったサトウキビ農家が減りランや菊などの園芸作物、サヤインゲン・オクラ・豊原ナス等の野菜づくり農家に変わりつつある。

前原・江洲には県内随一の大型スーパーがあり、校区南東沿岸は大規模な埋め立てで産業地として変貌しつつある。

平成25年度は1学年在籍数が128人。数年後は、学級数増が予想されるので校舎改築・増築が大きな課題である。

### 仲喜洲高等尋常小学校校歌

田端一村 作

眺め雄々しき 東海の  
波は洲崎の 岸による  
実り豊けき 生し地に  
沃野をのぞむ 窓あけて  
礎堅く 軒高く  
わが仲喜洲は そびえ立つ

今でも古里を懐かしむように、この校歌が愛唱されている。